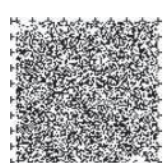


## 第2章 市民一人ひとりが 輝く都市 久留米



### 都市の主役は、市民です。

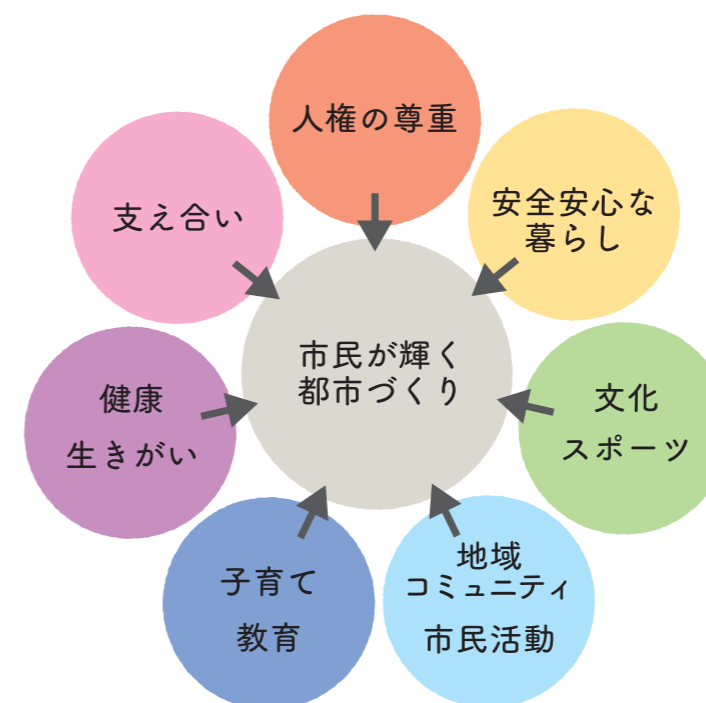
子どもから高齢者、今後増加が見込まれる外国人など、市民一人ひとりがかけがえのない人間として尊重され、安全で安心な日常の中で、健やかで心豊かな生活を送ることができるまちを実現することは、住みやすく、暮らしたくなるまちの必要条件と言えます。

### また、子どもは地域の宝です。

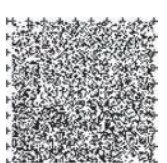
子どもの幸せを最優先に考え、すべての子どもと子育て家庭を社会全体で支えていくことが重要です。子どもたちが安心して学べる環境の中で、夢と希望を抱き、豊かな個性と能力を磨き上げながら、社会に参画し活躍する力を身に付ける教育を進める必要があります。

さらに、市民がお互いに協力し合い、自らの住む地域を自らでより良くするための地域コミュニティ活動や市民活動が活性化され、ともに支え合う地域共生社会づくりが求められます。

これからも、多様な主体が活動し、多彩な価値観が息づく地域社会で、主役である市民が自らの役割と責任を果たしつつ、様々な取組が展開される“市民一人ひとりが輝く都市”づくりを進めます。



いろんな要素の  
バランスが大事！



# 第1節 人権の尊重と男女共同参画が確立されたまち

## 施策

I 人権意識の確立と人権擁護の推進

II 男女共同参画の推進



## 目指す姿

同和問題をはじめとするあらゆる差別の解消に向けて、市民一人ひとりが人権問題を自分の問題として感じ、考え、その解決に向けて主体的に行動する、人権が確立されたまちを目指します。

また、男女が互いにその人権を尊重しながら責任を分かち合い、性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指します。

## 現状と課題

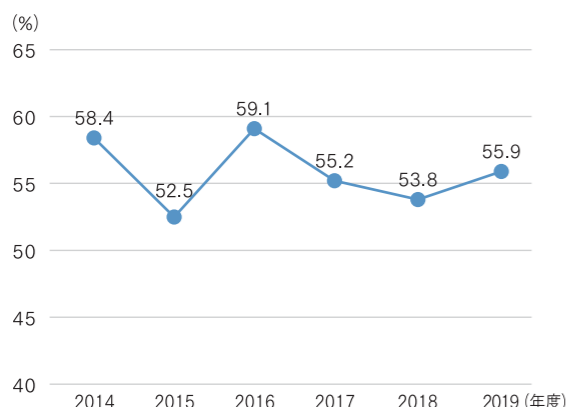
差別事件や人権侵害事案が依然として発生する中、情報社会の進展や差別を解消するための法律の施行など、人権問題を取り巻く状況の変化を踏まえた教育や啓発の積極的な展開が必要となっています。

加えて、あらゆる人々が孤立したり、取り残されたりすることがないように、社会全体で包み、支え合うという視点での人権課題解決の取組や、人権擁護施策の推進、同和問題の解決に向けた施策の充実が求められています。

また、固定的性別役割分担意識[\*]による慣習や慣行が根強く残っていることから、男女平等についての正しい理解の定着を促進し、市民一人ひとりの主体的な行動につなげる必要があります。

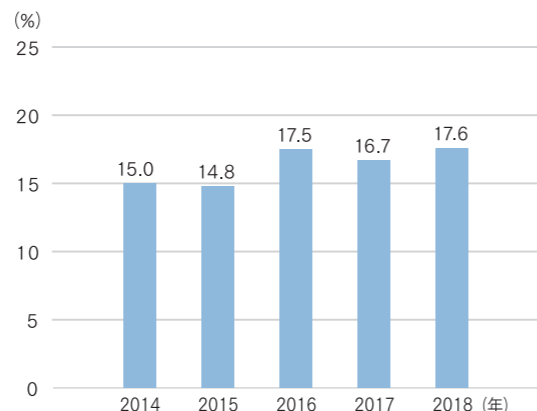
[\*] 固定的性別役割分担意識：「男は仕事、女は家庭」などのように、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分ける考え方のこと。

人権感覚を高めたいと思う市民の割合



資料)久留米市民意識調査

校区コミュニティ組織における女性役員の割合



資料)久留米市調査

## 施策の内容

### I 人権意識の確立と人権擁護の推進

差別の実態を捉え、あらゆる機会や場において、態度や行動に現れるような市民の人権意識を醸成するための教育や啓発を強化します。あわせて、地域や学校、関係団体等との連携を深め、人権のまちづくりを推進するとともに、今後増加が見込まれる外国人や、性的少数者からの相談など、様々な人権問題に対応する相談体制の充実に取り組みます。

また、ドメスティック・バイオレンス(DV)[\*]をはじめ、子ども、高齢者、障害者への虐待や性暴力などの人権侵害の未然防止、被害者の保護や救済に取り組むとともに、判断能力が不十分な人の権利擁護の取組を進めます。

さらに、同和問題の解決に向けて、経済的自立や社会参加の機会均等を図るための支援などに取り組みます。

[\*] ドメスティック・バイオレンス (DV)：配偶者間や恋人同士等、親密な関係における身体的、精神的、性的、経済的、社会的暴力等。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
人権研修会に初めて参加した人の割合	17.5%	20.0%

▶人権問題について一人でも多くの方に知ってもらい、学んでもらえるような取組の成果を示す指標として設定。

多くの人に人権問題を知ってほしいね



### II 男女共同参画の推進

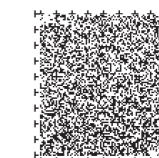
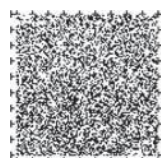
市民一人ひとりの男女平等の意識づくりのための教育や啓発を強化するとともに、固定的性別役割分担意識に基づく慣習や慣行の解消に向けた取組を推進します。

また、あらゆる分野において、性別により差別されることなく、個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて、女性が意思決定場面に参画し、活躍するための環境づくりや人材育成の充実などに取り組みます。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
校区コミュニティ組織における女性役員の割合	17.6%	20.0%

▶男女平等についての正しい理解の定着が促進され、慣習や慣行の改善が進むことを示す指標として設定。

みんなの意識が変わらないといけないね



## 第2節 安全で安心して暮らせるまち

### 施策

- I 総合的な危機管理の強化
- II 暮らしの安全対策の推進



### 目指す姿

市民の生命と財産を災害から守り、都市基盤における高い防災機能や「自助」「共助」による地域防災力の向上により、あらゆるリスクに対応できる総合的な危機管理が備わった、強靱な都市を目指します。

また、地域、各種団体、関係機関と行政が協働して、日常生活におけるあらゆる分野で予防活動などに取り組むセーフコミュニティ[※]の理念が生かされた、安全で安心して暮らすことができるまちを目指します。

[※] セーフコミュニティ：「事故やけがは、原因を究明することで予防できる」という理念に基づいて、予防に重点を置き、地域社会全体で進める安全安心なまちづくりの取組やそれを行う地域のこと。国際認証制度。

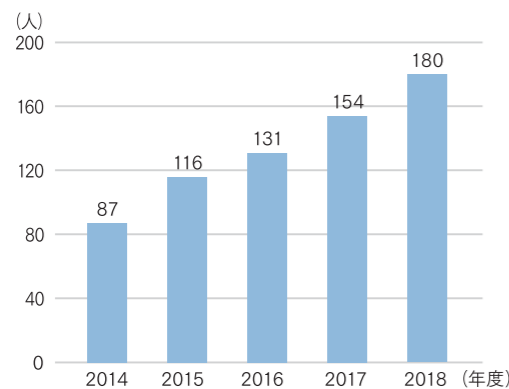
### 現状と課題

近年頻発する、豪雨などによる大規模自然災害を教訓に、浸水等の被害を可能な限り最小限に抑えるため、市民や地域への迅速かつ的確な情報伝達が求められています。

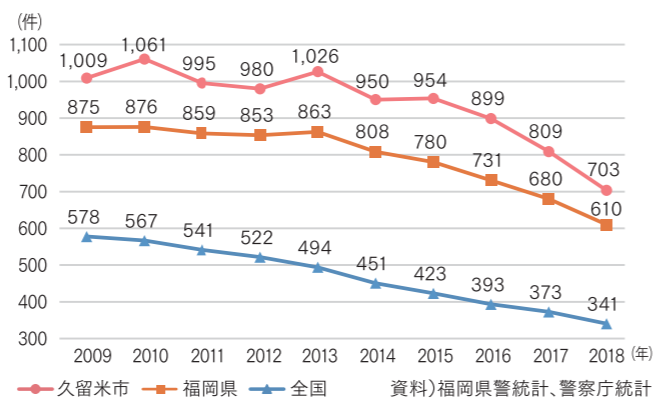
また、浸水対策の強化や避難所環境の充実など、都市基盤の整備による防災機能の向上を図るとともに、平常時から様々な防災等の情報を周知し、自主防災活動による備えを充実させる必要があります。

さらに、市内の犯罪認知件数は減少傾向にあるものの、依然として高齢者や子ども、女性などを狙った犯罪は発生しており、また、人口当たりの交通事故発生件数は全国や県を上回っている状況です。このため、犯罪等の被害やけが、事故などを未然に防ぐために、日常生活における予防意識の向上や安全確保のための環境整備が求められています。

防災士・防災リーダーの数



交通事故発生件数(10万人あたり)



### 施策の内容

## I 総合的な危機管理の強化

自主防災活動の更なる活性化に向けて、地域住民による避難活動や避難所運営が迅速にできる体制づくり、防災士等の人材の育成に取り組むとともに、地域と行政が連携を強化し、十分な防災機能を備えた避難環境の整備に取り組みます。

また、災害種別や地域の状況に応じて適宜、各種防災計画を見直し、迅速な情報収集体制の確立を図るとともに、適正な判断に基づき多様な伝達手段を用いて、早期かつ確実に情報が伝達できる仕組みづくりに取り組めます。

さらに、市民の安全性の向上を図るため、国や県と連携した治水事業や治山事業をはじめ、河川やため池の整備、市民や民間事業者と連携した雨水流出抑制などの浸水対策の強化、公共施設の耐震化に継続して取り組めます。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
防災士・防災リーダーの数 (累計)	180人	800人

▶地域における防災活動の専門家が増え、人々が安全で安心して暮らせるまちづくりが進むことを示す指標として設定。

地域の頼れる人が4倍以上に!



## II 暮らしの安全対策の推進

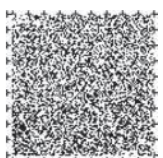
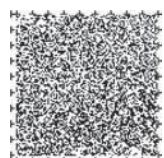
セーフコミュニティ活動を更に充実させるため、市民への啓発や情報提供、自主的な活動への支援に取り組めます。特に、警察や関係機関等との協働による防犯活動や暴力追放運動の展開、防犯環境の整備を行うとともに、各種交通安全団体やボランティアとの連携強化による交通安全の啓発と交通事故を防止する環境の整備に取り組めます。

あわせて、教育機関との連携による消費者教育の充実や、見守りによる高齢者などの消費者被害の抑止に取り組めます。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
交通事故発生件数 [10万人当たり]	703件 福岡県:610件	県の発生件数以下

▶交通事故の防止に向けた、積極的な啓発活動や環境整備の取組の成果を示す指標として設定。

ゆずり合いの気持ちが大事!

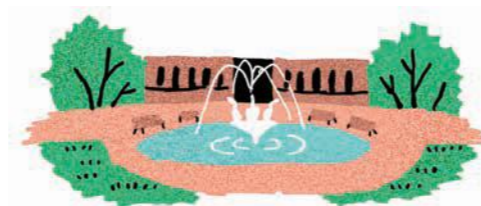


### 第3節 心豊かな市民生活を創造するまち

#### 施策

I 創造的な文化芸術活動の推進

II 生涯学習・スポーツの振興



#### 目指す姿

市民一人ひとりがそれぞれの価値観や生活様式に応じて、優れた文化芸術に触れる機会が身近にあふれた、彩りある文化創造都市を目指します。

また、生涯にわたって主体的に学び、活動し、スポーツを楽しむことができるなど、誰もが生活にゆとりと潤いを持って心豊かに暮らすことができるまちを目指します。

#### 現状と課題

豊かな感性や新たな創造性を育む文化芸術は、日々の暮らしに癒しや活力をもたらすとともに、地域の特性や独自性を継承し、人々がその土地で生き続けるための礎となるなど、大きな力を発揮しており、あらためて、文化芸術の持つ力と意義が再認識されています。

また、社会情勢や人々の意識が目まぐるしく変化する時代潮流の中で、精神的な満足や自己実現の喜びにつながる生涯学習やスポーツの持つ力を、人づくりやまちづくりにつなげていくことの重要性が増しています。



文化芸術に触れる機会が充実しているね

#### 施策の内容

### I 創造的な文化芸術活動の推進

久留米シティプラザと久留米市美術館を最大限に活用し、上質で魅力的な文化芸術の鑑賞機会の確保を更に強化するとともに、市内外からの関心を高めるような情報発信の充実や、施設利用における利便性の向上を図ることにより、鑑賞者の増加と交流人口の拡大につなげます。

また、人々が気軽に音楽を楽しむために集い、交流する機会の創出に継続して取り組むとともに、アウトリーチ事業やワークショップ事業等の充実により、次代を担う子どもたちをはじめ、高齢者や障害者など、多様な主体が文化芸術を気軽に体験できる機会の創出に取り組みます。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
文化施設の利用者数	27.1万人	28.8万人

▶上質で魅力的な文化芸術の鑑賞機会の充実や、誰もが気軽に体験できるイベントの開催等による取組の成果を示す指標として設定。



### II 生涯学習・スポーツの振興

校区コミュニティ組織等の団体と連携、協力しながら、市民が日常的に学習活動に取り組むことができる魅力ある学習プログラムの提供に加え、その学習成果を地域事業への参画や地域貢献活動につなげる取組を充実します。

また、誰もが、ライフステージに応じて身近な地域でスポーツを楽しみ、健康づくりを進める機会や施設の利用環境を充実させるとともに、市民のスポーツ意識や競技力の向上をはじめ、スポーツ観戦の促進に向けた情報の発信、スポーツを支える人材の育成と確保に取り組みます。

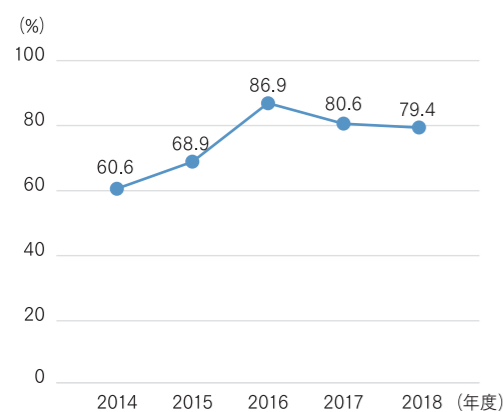


スポーツのきっかけにはウォーキングやラジオ体操がうれしいよ!

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
成人の週1回以上のスポーツ実施率	45.0%	65.0%

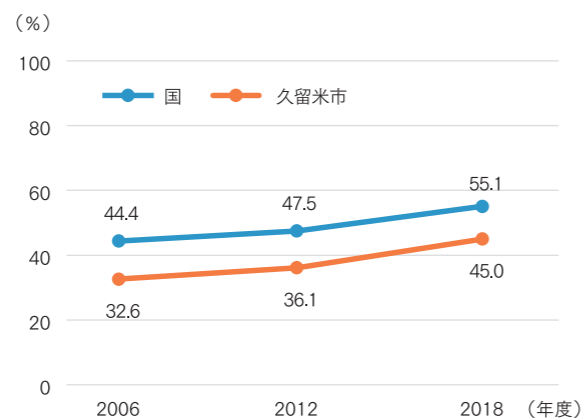
▶誰もが身近にスポーツを楽しみ、健康づくりに取り組む機会が増えることを示す指標として設定。

文化芸術に接する機会が増えたと感じる市民の割合

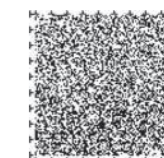
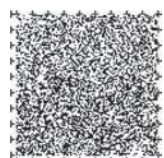


資料) 市政アンケートモニター

成人の週1回以上のスポーツ実施率



資料) 国：体力・スポーツに関する世論調査(2012年度まで)及びスポーツの実施状況等に関する世論調査(2018年度)  
久留米市：久留米市民意識調査(2012年度まで)及び市政アンケートモニター(2018年度)



# 第4節 多様な市民活動が連帯するまち

## 施策

I 地域コミュニティの活性化

II 市民活動の活性化



## 目指す姿

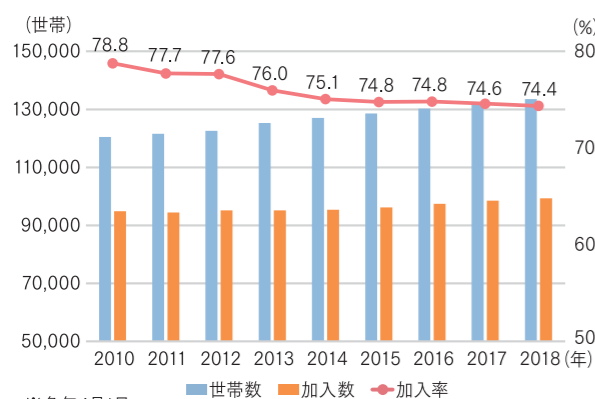
多様化する地域課題の解決や地域の活性化に向けて、地域社会を構成する各主体が、それぞれの特性を生かしながら連携し、自らが暮らす地域を自らの力でよりよくしていく活動が活発に展開されるまちを目指します。

## 現状と課題

地域のつながりの希薄化や高齢化の進行を背景として、自治会加入率の伸び悩みや参加意識の低下、まちづくり活動の担い手不足などが懸念されており、校区コミュニティや自治会活動の重要性と必要性に対する市民の理解を促進し、主体的な参加につなげる取組を進める必要があります。

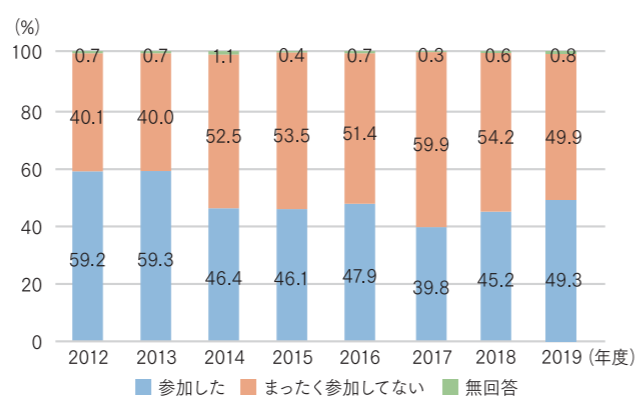
また、市民活動においては、新たな活動が芽生えるなど、活動の裾野が広がっており、今後は、活動の継続と活性化が重要となるため、団体の運営基盤の強化や団体間のネットワークの形成を進める必要があります。

自治会加入世帯数及び加入率



※各年4月1日  
資料)久留米市調査

市民の地域活動・市民活動への参加率



資料)久留米市民意識調査



## 施策の内容

### I 地域コミュニティの活性化

校区コミュニティ組織や自治会と連携しながら、住民自治意識の醸成を図るための地域情報の発信を強化するとともに、PTA役員経験者等に地域活動への参加を促すなど、新たな担い手の育成や確保に努め、自治会への加入促進やまちづくり活動の活性化に取り組みます。

また、まちづくり活動の基盤を維持するため、拠点施設の整備や校区間での情報共有のほか、人材育成などの持続可能な組織運営のための支援を行うとともに、地域の特性や実情に応じたまちづくり活動の活性化に向けた支援を充実します。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
自治会加入世帯数 (累計)	99,305世帯	102,000世帯

▶人口の減少や高齢者世帯の増加が進む中、地域コミュニティの維持やまちづくりの活性化に向けた基盤づくりを示す指標として設定。



防犯灯

ゴミステーション

自治会の役割は  
とても大事!



### II 市民活動の活性化

地域課題の解決に向けた多彩な市民活動が活発に展開されるよう、様々な情報や活動の場の提供を行う市民活動サポートセンターの機能を充実するとともに、社会福祉協議会との連携により、中間支援組織としての相互の役割を強化し、市民活動団体の運営や活動の支援に取り組みます。

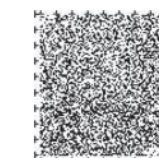
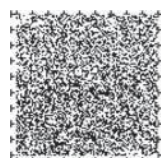
また、学生のまちづくり活動の支援など市民活動の担い手の育成を進めるとともに、地域コミュニティ組織やNPO[※]、ボランティア団体、事業者、大学等が、それぞれの特性を生かしながら活動できるよう、情報の共有化や相互理解を深めることができる環境づくりに取り組みます。

[※] NPO: 自主的、自発的に公益的な活動を行い、利潤追求、利益分配を目的としない民間団体の総称。[Non Profit Organization]又は[Not for Profit Organization]の略。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
地域活動・ボランティア活動の 団体数(累計)	328団体	370団体

▶多様化する地域課題の解決や地域の活性化のために、より多くの団体による活動が活発になることを示す指標として設定。

こんなに  
ボランティア団体  
あるんだね



### 第5節 子どもの笑顔があふれるまち

#### 施策

- I 安心して産み、育てられる環境の充実
- II 子どもの健やかな育ちの保障
- III 未来へつながる教育と学びの充実
- IV 安心して学べる教育環境づくりの推進



#### 目指す姿

子どもや子育てが地域全体で支えられ、安心して子どもを産み育てられる環境の中で、すべての子どもが希望を持って成長できる、子どもの笑顔があふれるまちを目指します。

また、次代を担う子どもたち一人ひとりが大切にされ、未来を支える人づくりにつながる、教育が充実したまちを目指します。

#### 現状と課題

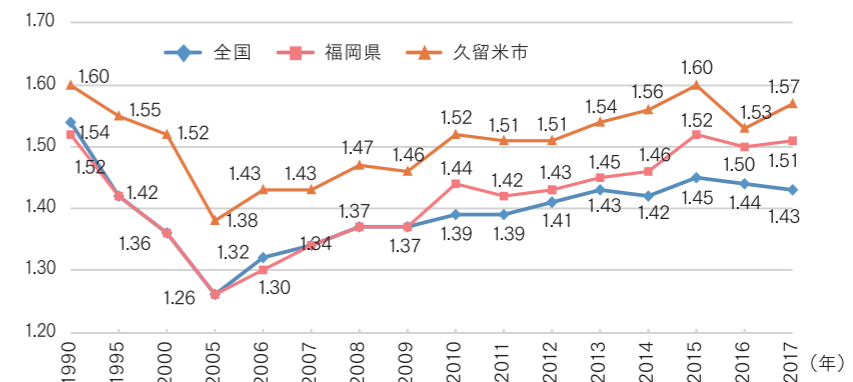
現在の子どもを取り巻く環境は、家族形態の多様化や地域のつながりの希薄化、人口減少に伴う地域間の偏在などの影響を受け、家庭や地域の子育て力と教育力の低下が懸念されています。

こうした背景のもと、減少しない保育ニーズや地域で孤立する子育て家庭への支援、深刻な事案が後を絶たない児童虐待の防止といった課題に対応し、誰もが安心して子育てでき、すべての子どもが夢や希望を持って健やかに成長することができる環境の整備を進めていく必要があります。

また、次代を担う子どもたちが、ふるさと久留米への愛着と誇りを育みながら、生きる力を身につけ、自立した人間として成長できるよう、学校、家庭、地域が連携した教育を引き続き推進していくとともに、時代や社会の変化を的確に捉え、未来へつながる教育環境を整えていく必要があります。



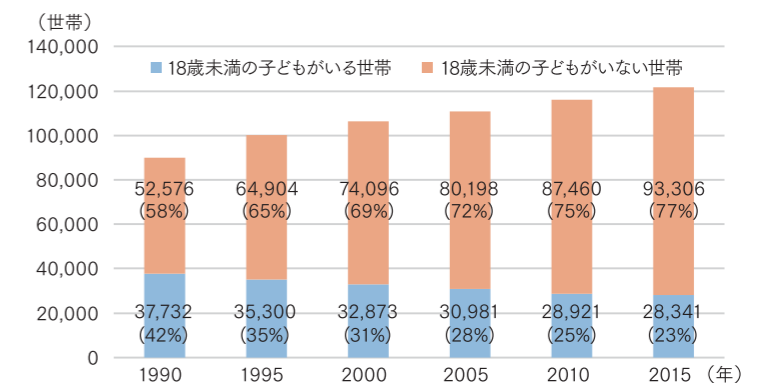
合計特殊出生率



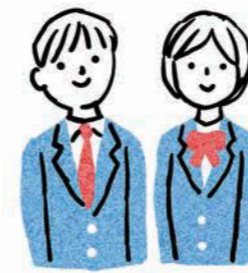
資料)全国及び福岡県:厚生労働省人口動態統計  
久留米市:厚生労働省人口動態統計、国勢調査人口、久留米市住民基本台帳人口を基に算出



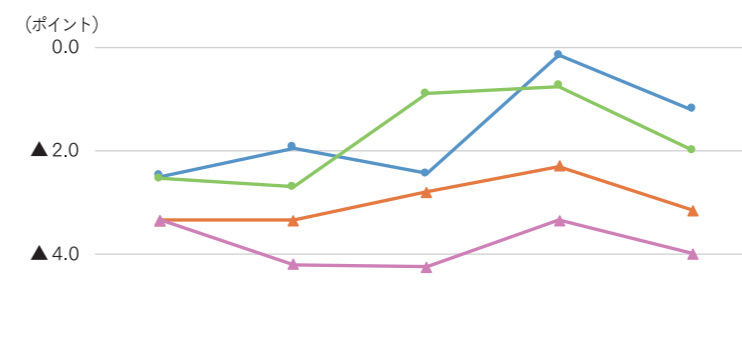
18歳未満の子どもがいる世帯数



資料)国勢調査

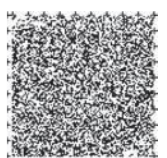
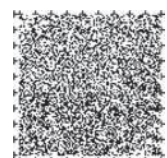


全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
小学校国語	▲2.5	▲2.0	▲2.5	▲0.2	▲1.2
小学校算数	▲2.6	▲2.7	▲0.9	▲0.8	▲2.0
中学校国語	▲3.4	▲3.4	▲2.8	▲2.3	▲3.2
中学校数学	▲3.4	▲4.2	▲4.3	▲3.4	▲4.0

※数値は、知識に関するA区分と、その活用に関するB区分の平均値  
資料)全国学力・学習状況調査



施策の内容

### I 安心して産み、育てられる環境の充実

結婚や子育てに関する情報提供と切れ目のない相談支援体制づくりを進めるとともに、保護者の経済的負担軽減への対応、幼児教育・保育や学童保育に関する質の向上と待機児童の解消を含む需要量に応じた提供に取り組めます。

また、子育て中の保護者の自助・共助の取組や、子育て支援に取り組む団体の活動支援により、地域での子どもと子育てを支える体制づくりを進めるとともに、結婚、妊娠、出産、子育ての希望がかなう環境づくりに向けて総合的に取り組めます。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成29年(2017年)度	目標値 令和7年(2025年)度
合計特殊出生率[※]	1.57	1.77

[※] 合計特殊出生率：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

▶結婚や子育てがしやすい環境を整えることで、実際に持つ子どもの数と理想的な子どもの数の差が縮まり、子どもの数が増えることを示す指標として設定。



希望する子どもの数と現実の数に開きがあります



### II 子どもの健やかな育ちの保障

子どもが成長していく上で、困りごとを抱え込んだり、生きづらさを感じたりすることがないように、発達が気になる子どもへの支援をはじめ、児童虐待の防止と子どもの権利擁護、青少年の非行防止と健全育成に向けた取組など、関係機関との緊密な連携を図りながら、子どもが健やかに育つことができる環境づくりを進めます。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 令和元年(2019年)度	目標値 令和7年(2025年)度
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 (全国平均との差)	全国平均 (小)▲3.8 (小):81.2% (中)▲6.3 (中):74.1%	小中学校ともに 全国平均以上

▶自分のよいところを認めることができる子どもが増え、子どもが自分らしく健やかに生き生きと成長していることを示す指標として設定。



学校や市役所には、困りごとを相談できる窓口があります



### III 未来へつながる教育と学びの充実

児童生徒の学力の保障と向上に向けて、質の高い授業づくりに向けた研究と実践を進めるとともに、放課後等の学習会による学習習慣の定着を図ります。あわせて、新時代の子どもたちの学びを支える、ICT[※]を基盤とした先端技術の効果的な活用を図り、プログラミング教育や外国語教育、個別最適化された学びの実現などに取り組めます。

また、郷土の文化や自然に親しみ、誇りと愛情を育むための「くるめ学」の取組や、質の高い文化芸術に触れ、感性や創造性を育む取組など、特色ある教育を進めるとともに、子どもたちの発達や成長を支え、生きる力の根底となる体力の向上に取り組めます。

[※] ICT：情報通信技術。「Information and Communication Technology」の略。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 令和元年(2019年)度	目標値 令和7年(2025年)度
全国学力・学習状況調査の平均正答率 (全国平均との差)	全国平均 (小)国 0.2 (小)国:63.8 算▲1.6 算:66.6 (中)国▲2.8 (中)国:72.8 数▲3.8 数:59.8	小中学校ともに 全国平均以上

▶学校、家庭、地域が連携し、知徳体のバランスの取れた教育が実施され、子どもたちが将来の夢をかなえるための確かな学力を身に付けていることを示す指標として設定。

みんながあと1問正解できれば達成できる数字です



### IV 安心して学べる教育環境づくりの推進

学校や家庭、地域が連携し、子どもたちが豊かな心と高い人権感覚を身に付けることができるよう支援するとともに、いじめや不登校の早期発見、早期対応、障害を持つ子どもや日本語習得に関して支援が必要な子どもへの支援体制の充実などを通じて、自尊感情や自己有用感[※]を高める取組を進めます。

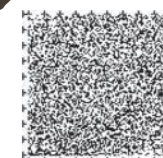
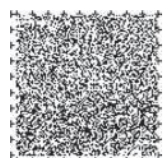
また、地域の人材や専門家、ICT等を活用して、教員の働き方改革を進めるとともに、計画的に学校の施設や設備を整備します。あわせて、学校教育上の様々な課題が生じる可能性がある過小・過大規模校への対応に取り組めます。

[※] 自己有用感：他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 令和元年(2019年)度	目標値 令和7年(2025年)度
学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合 (全国平均との差)	全国平均 (小)▲0.7 (小):85.8% (中)▲1.2 (中):81.9%	小中学校ともに 全国平均以上

▶楽しく学校に通うことができる子どもが増え、学校が子どもたちにとって安心で安全な環境であることを示す指標として設定。

教育環境って本当に大事!



# 第6節 健康で生きがいがあるまち

## 施策

- I 心と体の健康増進
- II 保健医療体制の充実
- III 高齢者・障害者の社会参加の推進



## 目指す姿

市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組む高い意識を持ち、個人の健康を地域社会全体で支え合うとともに、質の高い医療を享受でき、保健所機能や健康危機管理体制が充実した、健康都市の実現を目指します。

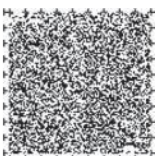
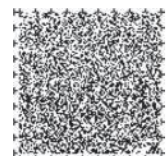
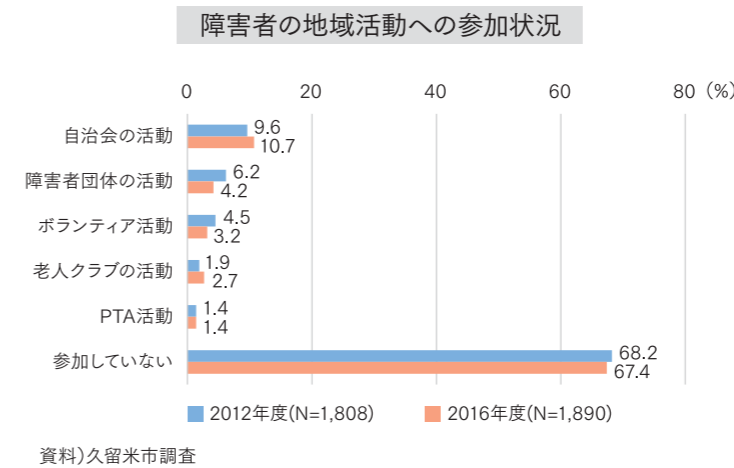
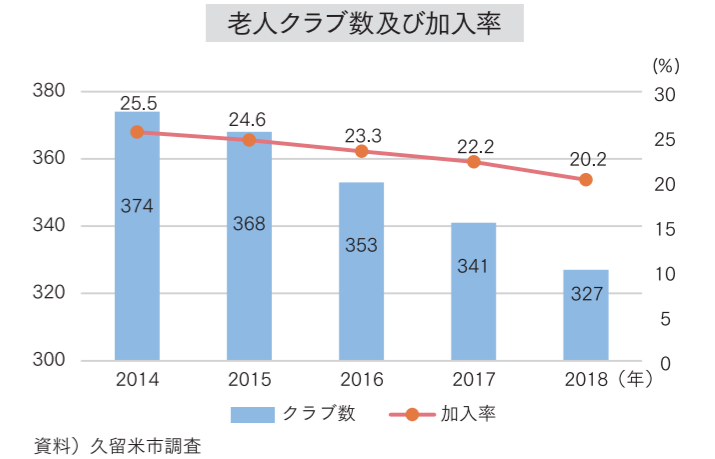
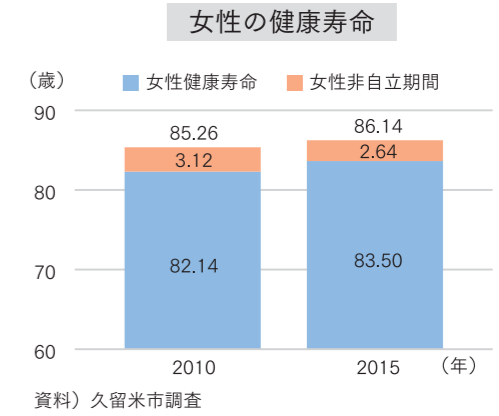
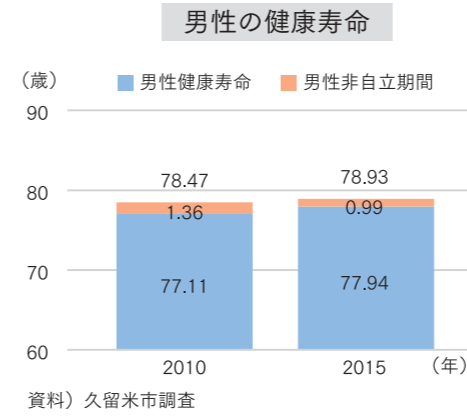
また、高齢者や障害者などの個人の特性やライフスタイルに応じて社会参加ができ、自分らしく健康で、生きがいを持つことのできるまちを目指します。

## 現状と課題

誰もが生涯を通じて質の高い生活を送り、生き生きと活動し続けるためには、心身の健康を増進し、健康寿命[\*]を伸ばす必要があります。あわせて、それらを支える質の高い医療を安定的に供給するとともに、感染症などによる健康リスクに対する体制づくりを行う必要があります。

また、高齢者や障害者が住み慣れた地域で安心して自立した生活を送るためには、できる限り地域と関わり、活動等に参加することが重要になっています。このため、高齢者の生きがいづくりや健康づくりの推進をはじめ、障害者の就労に関する支援や必要な情報が容易に取得できる環境の整備など、高齢者や障害者が、これまで以上に積極的に社会参加ができる環境を整える必要があります。

[\*] 健康寿命：健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。





施策の内容

I 心と体の健康増進

生活習慣病の発症や重症化予防対策として、各種健(検)診の受診率の向上に取り組むとともに、市民一人ひとりが主体的に健康の増進に取り組む意識づくりや、幅広い世代の健康づくりに取り組みます。

また、こころの健康に関する周知や啓発、相談窓口の充実に取り組むとともに、誰も自殺に追い込まれることのないよう、地域や職域、関係機関等との連携強化に取り組みます。

さらに、これらの施策展開の核となる保健所等の機能充実や施設整備について、引き続き検討を進めます。



やっぱり定期検診が必要だね!

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
各種がん検診の平均受診率	16.9%	30.0%

▶積極的にがん検診を受ける市民が増え、市民一人ひとりの健康づくりへの関心が高まっていることを示す指標として設定。

II 保健医療体制の充実

地域の医療機関などとの連携により、ドクターカー[※]運行事業や夜間の小児救急医療体制の安定的な運営など、質の高い医療を安心して受けることができる救急医療体制の確保に取り組むとともに、市民に対して適正受診の周知啓発を図り、救急外来の適正利用と医療費の抑制を推進します。

また、感染症や食中毒の予防と拡大防止の取組の強化に加え、新型インフルエンザ等の新たな感染症の発生や自然災害時の健康被害などに迅速に対応できる体制を整備し、充実を図ります。

[※] ドクターカー：重症患者の救命率の向上や後遺症の軽減を図るため、久留米大学病院、久留米広域消防本部との連携のもと、大学病院の医師と看護師が同乗した救急車。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
ドクターカー運行事業における、心肺停止者の発症一か月後の生存率	20.0%	20.0%

▶救命率や社会復帰率が高い状態で保たれ、誰もが地域の充実した保健医療体制を享受しながら安心して暮らせることを示す指標として設定。

注) 久留米市のドクターカー運行事業における、心肺停止者の発症一か月後の生存率は、全国平均を上回る実績で推移しており、現在の体制を維持することを目標としている。

久留米市内の救急搬送時間は全国トップクラスです

III 高齢者・障害者の社会参加の推進

高齢者の地域活動を通じた健康づくりをはじめ、多世代交流の促進などによる仲間づくりや、高齢者の生きがいづくりにつながる学習意欲の向上と運動習慣の定着を促進するとともに、地域住民主体の介護予防活動の支援に取り組みます。

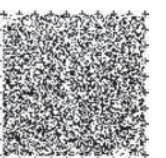
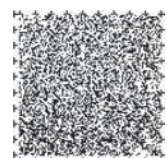
また、障害者の生きがいづくり支援や社会参加に向けて、誰もが必要とする情報を円滑に利用できる環境の構築をはじめ、文化芸術やスポーツ活動に参加する機会の充実、障害者への理解を深めるための啓発や広報に取り組むとともに、就労に向けた相談体制の充実を図ります。



都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
住民主体の介護予防活動の場の数 (累計)	96か所	150か所

▶住民主体の介護予防活動をはじめとして、高齢者や障害者の社会参加の取組が身近な地域で広まることを示す指標として設定。

介護予防活動はリズムに合わせた体操やみんなで声を出したり歌ったりする楽しい活動です



# 第7節 お互いのやさしさと思いやりの見えるまち

## 施策

- I 支え合う地域づくりの推進
- II 高齢者・障害者福祉の充実
- III 生活困窮や子どもの貧困対策の充実



## 目指す姿

制度や分野ごとの縦割り、「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域の多様な主体が参画し、世代や分野を超えてつながる地域共生社会の実現に向けて、高齢者や障害者、生活困窮者等への支援はもとより、地域住民一人ひとりが住み慣れた地域で相互に支え合い、やさしさと思いやりの心を持って暮らし続けることができるまちを目指します。

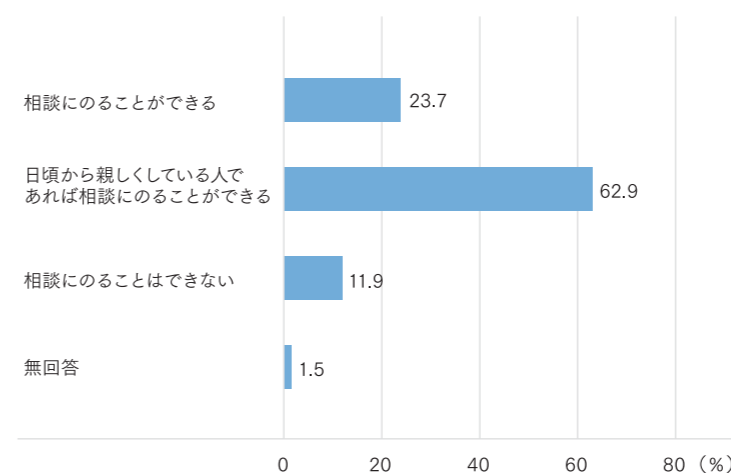
## 現状と課題

少子高齢化や人口減少社会の進行、人々の暮らしの変化等により、人と人、人と地域とのつながりの希薄化が社会的孤立を引き起こし、健康や貧困など様々なリスクの連鎖や複合化、深刻化につながっていくことが課題となっています。こうした生活課題を地域住民や関係団体が把握し、解決を試みるため、地域における包括的な支援体制の整備を通じて、誰もが安心して暮らすことができる仕組みを構築する必要があります。

また、高齢者や障害者、生活困窮者など、生活をしていく上で何らかの支援を必要とする人々が、地域において生き生きと自立し、安心して暮らしていくためには、地域や関係団体からの支援とともに、ニーズに応じた適切なサービスや活動が展開される必要があります。

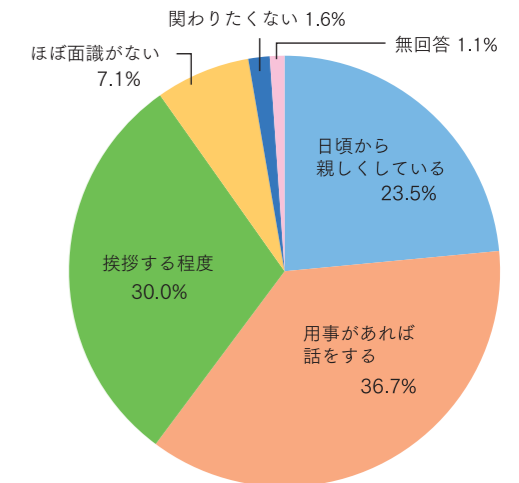


### 近所で困っている人の相談への対応



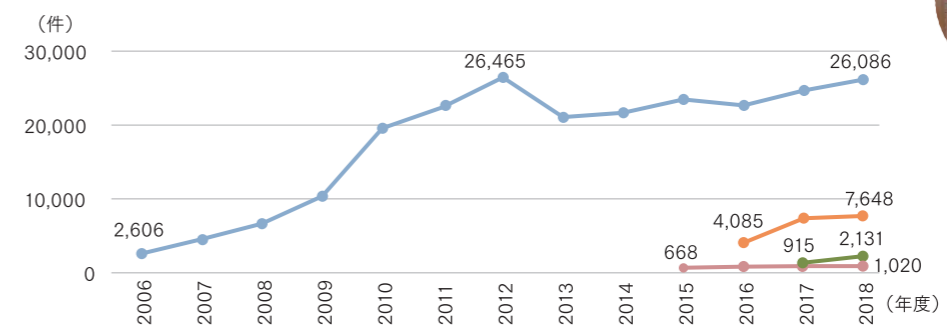
※令和元年(2019年)度  
資料)久留米市民意識調査

### 近所との付き合いの程度



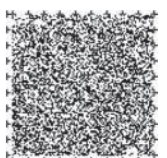
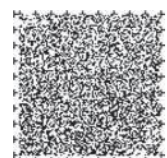
※令和元年(2019年)度  
資料)久留米市民意識調査

### 各相談窓口の相談件数の状況



- 地域包括支援センター(総合相談)【2006年～】
- 障害者基幹相談支援センター【2016年7月～】
- 子ども子育てサポートセンター【2017年10月～】
- 生活自立支援センター(自立相談支援事業)【2015年6月～】

資料)各相談窓口資料を基に作成



施策の内容

### I 支え合う地域づくりの推進

地域で支え合う共助意識を醸成し、地域住民の課題解決力や支援を受けられる力を高め合うとともに、住民と支援を行う関係機関との連携による支え合いの仕組みを強化するなど、地域福祉の推進に向けて、住民や関係団体が主体的かつ相互に、生活課題の解決を試みるための包括的な支援体制づくりに取り組みます。



地域のボランティアのみなさんのおかげですね

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
地域での見守り訪問活動件数	226,650件	296,000件

▶地域住民によるお互いを見守り訪問が広まり、地域で支え合う共助意識が高まることを示す指標として設定。

### II 高齢者・障害者福祉の充実

地域包括支援センター[※1]を核とした総合相談窓口機能の強化をはじめ、地域と多様な専門職が連携した支援の拡充、認知症の早期診断と早期対応の推進、認知症の人や家族への地域全体での支援など、高齢者が地域で自立して生活できる取組を進めます。

また、障害者が共同して生活する住居や多様な日中活動を行う施設の整備に加え、様々な在宅福祉サービスの充実に取り組むとともに、基幹相談支援センター[※2]など相談支援体制の充実に取り組めます。

[※1] 地域包括支援センター：保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士などが中心となって、専門分野を生かしつつ、互いに連携をとりながらチームとして総合的に高齢者の支援を行う機関。  
 [※2] 基幹相談支援センター：地域における障害のある方の相談支援の拠点として、あらゆる障害に対する総合的な相談業務や、相談支援事業所に対する支援等の業務を実施する機関。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
地域包括支援センター及び障害者基幹相談支援センターの総合相談件数	33,734件	46,000件

▶高齢者や障害者が困りごとを相談しやすい環境が整い、誰もが住み慣れた地域で健やかに暮らしていけることを示す指標として設定。

市内に15か所あるんだって！



### III 生活困窮や子どもの貧困対策の充実

生活に困窮する人の自立に向けて、関係機関と連携しながら、一人ひとりに寄り添った切れ目のない早期の支援を包括的かつ継続的に行います。

また、生活面や経済面に課題を抱えているひとり親家庭への支援に取り組むとともに、生活困窮など困難を抱える子どもが貧困の連鎖を断ち切り、希望に満ちた将来を展望できるよう、自立に必要な力の育成を支援する取組を進めます。



都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
生活自立支援センターの相談支援件数	1,020件	1,020件

▶生活に困窮している人が相談や支援を受けることができる環境が整い、誰もが住み慣れた地域で自立して暮らしていけることを示す指標として設定。

注) 久留米市における相談支援件数は、国の基準を上回る実績で推移しており、現在の支援件数を維持することを目標としている。

暮らしやお金に関する相談ができるそうだよ

